

Yamakado News Letter



南部湿原から高台展望所の空撮 6/25



組み立て開始 5/30



床板を切り揃えて完成 6/24



ドローン空撮 6/25



湿原展望台の階段19/9/11

展望台2基の建て替え完了

3月から取り掛かった南部湿原の展望台2基の建て替えがようやく完了しました。色々手違いがあり、部材を現場に運び込んでから手刻み加工をすることになったので、余計に手間がかかってしまいました。また、3月から6月にかけてはササユリの保全、ミヤマウメドキとヒサカキの雌雄調査など、スケジュールを遅らせられない作業も立て込んでいて、必然的に展望台の施工は合間に行うこととなり、時間もかかりました。

湿原ぎわの展望台の床は地面から約60センチ高く、今までは木製の階段で登る仕様でした。この階段も随分早い時期から地面接触部の腐食が進んでいて安全面

に問題がありました。そこで展望台を新調するにあたり、階段はコンクリートブロックで作ることにしました。これら資材は牧場進入路までは輸送できますが、そこから先は全て手運搬です。工事は沢山の会員の参加により、進めることができました。

10周年記念誌によれば、県が公有地化した当初、1997年から3年かけて森林整備・木柵・展望台設置が実施されました。資材の輸送はヘリコプターで行い、総事業費は約4200万円だったとの事。それに比べれば20年ぶりの改修工事は随分小規模ですが、それなりに立派に完成したと思います。湿原ぎわの展望台はササユリ開花時期に間に合い、来訪者にも早速利用されていました。



ブロックのカット作業 6/6



施工中 6/9



モルタルで仕上げて完成 6/9

階段部材も順次更新

高台展望台へ向かう階段64段も随分痛んでいました。今回は2012年に間伐材を使用して全面改修しました。今回は近場に供給できる間伐材がなく、既製品のヒノキ10cm角材（いわゆるバタ角）を使用しました。防腐処理はされていませんが、皮剥きされているので丸太のままよりは長持ちすると思います。丸太より階段の歩きやすさも向上しました。

その他、保全活動の日はコース周辺の草刈りや、収穫するササユリの種を見つけやすくするためのマーキングなどを行いました。



64段分の横木を現場へ運搬 6/6



老朽化した部材を交換して杭打ち 6/6



開花後の株にピンク色の印をつけた棒を挿す(左)、コースや巡視路の草刈り(右) 6/20



ササユリシーズンもコロナ禍で来訪者数が半減しましたが、



南部湿原角の保護区で今年一番のササユリが開花 6/2



湿原コース沿いの保護区では開花数が過去最多になった 6/13

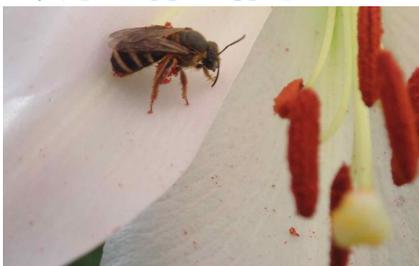
	初開花日	開花後4週間の訪問者数
2013年	6月2日	778
2014年	6月3日	703
2015年	5月28日	904
2016年	5月27日	644
2017年	6月1日	577
2018年	5月27日	596
2019年	6月1日	734
過去平均		702
2020年	6月2日	357

過去7年間の報告書などの記録からササユリの初開花日を調べ、その日から開花期間とされる四週間で、毎年どのくらいの一般来訪者がいたのかを調べてみました。それが

上の図です。過去7年間の平均では702人です。今年は357人。例年の半分程に減りました。その減少の内訳を調べてみると、ツアー客や、毎年自然学習で来ている岐阜市立青山中学の学生などの団体客でした。詳しい統計の記録がないので大凡ですが、ササユリ開花時期の団体客は例年200~250人程です。ということから、個人での来訪者数は例年よりやや少なめ程度ではないでしょうか。その内の約1/4が県外からの来訪者でした。

長年の多角的な保全の結果、ササユリの株数も増えてきました。来訪者の中には、そうした評判を聞きつけて来られる方も多数おられます。しかし、来訪者に単なるササユリ園と認識されるのは本意ではありません。ササユリを通じて生物多様性の保全の重要性をどう訴えていくかが、今後の課題と言えます。

今月の森の様子



ササユリの受粉に一役買うミツバチ 6/9



雨が降らなくても時期が来ればオタマジャクシが滴り落ちる様子が観察された 6/23



四季の森で初めてウメモドキの花を観察 6/27